

詩篇の配列編集に込められた意義

詩篇 119 篇

詩篇119篇は、聖書の中で最も長い章である。アルファベット詩と呼ばれる文学形式で、節の出だしの文字がアルファベット順に並べられている。特に、この詩篇は、ヘブライ語のアルファベット22文字すべて揃っており、ひとつの文字につき8節ずつで構成されている。22段落、176節のほとんどすべての節に、みおしえ、さとし、おきて、戒め、仰せなど、律法（トーラー）を表す用語が入っている壮大なみことば賛歌である。

配列編集の構造は単純である。また、主題の一致も明快である。しかし、形式的に分けられ、同じ教えが何度も繰り返され、正直なところ、機械的で単調に思える。「そんなはずはない。何か深い意味があるはずだ」と、我々はこの詩篇の分析に何度も挑戦してきた。律法を表すことばの分布を調べて、各段落の特徴と関連性を探ろうとした。段落ごとの鍵語を見つけ出し、段落間のつながりを導き出そうと試みもした。しかし、この詩篇全体からにじみ出てくる輝かしい調和が見出だせない。

珠玉のワイン22本。飲み比べて慣れてくると、辛さや甘さ、色や香りの違いがわかってくる。ソムリエになれば、国や産地ばかりではなく畑、収穫年も言い当てる。しかし、そこにはとどまらない。料理が無ければ、片手落ち。料理にふさわしいワイン、ワインにふさわしい料理。その調和によってワインも料理も生きたものとなる。

詩篇119篇は、長いひとつの詩篇ではなく、22の詩篇を集めた詩集である。詩集を取り扱う場合、詩集の中でのそれぞれの詩の違いと相互の関係を把握するだけでなく、ほかの詩篇集、ほかの聖書の箇所との調和を探ることも重要である。

今回も諦めかけていたところ、かすかな光が差し込んだ。ソムリエ修行中のため、その芳醇さを表現するには未熟ではあるが、詩篇119篇の配列編集を解き明かしてみたい。

1. 鍵語と鍵句：

頻出語と共通句を探ることにより、段落相互の関係を観察し分析する。

2. 段落の構造：

この詩集は、1-8、9-12、13-18、19-22の四段落で構成される。

3. 申命記：

主が、あなたに求めておられることは何か（申命記10:12）。父なる神の命令に対する子の応答が、詩篇119篇の概略をなす。

4. アブラハム、モーセ、ダビデの契約：

アダム、ノア、アブラハム、ヨシュア、ダビデ、ソロモン。

5. 第五巻の中での位置づけ：

第五巻の中でのこの詩集の役割、および、詩篇全体の中での第五巻の位置づけを探る。

第五巻の第二集である119篇は、七週の祭り・五旬節の段落。シナイ山で「守る」ことを教える。次の第三集、都上りの詩篇集は、シオンの山、神の都で「守られる」ことを賛美する。